「教育相談と発達障害」講習・資料解題

岐阜大学教職大学院（教育臨床実践コース）　橋　本　　治

Ⅰ　本講習の実施にあたって（ねらい）

「教育相談」と言うと、いじめ・不登校・不適応・非行・自殺などの相談を想起しやすい。一方「発達障害」と言うと、様々な発達障害の子を想起しやすい。この「教育相談」と「発達障害」は複雑に絡み合って大きな困難となっている場面をよく見かける。この講習では、その両者について述べ、いわゆる「小１プロブレム」「中１ギャップ」「高１ドロップ（筆者命名）」をいかに上手に越えていくかに言及したい。

Ⅱ　本講習の実際（講習テキストに従って）

１．はじめに

⑴　グループごとに席替え

⑵　司会・書記（報告付き）決め

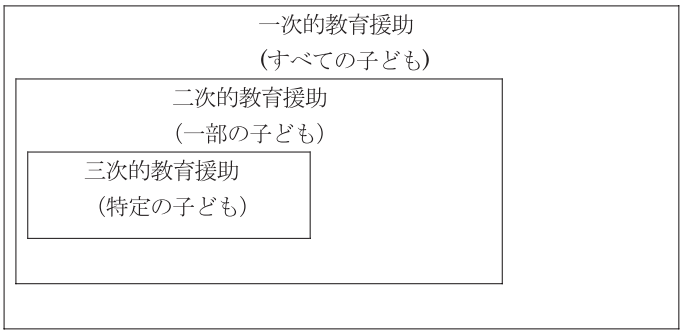
①１回目・・・司会（　　）、記録・報告（　　）

②２回目・・・司会（　　）、記録・報告（　　）

③３回目・・・司会（　　）、記録・報告（　　）

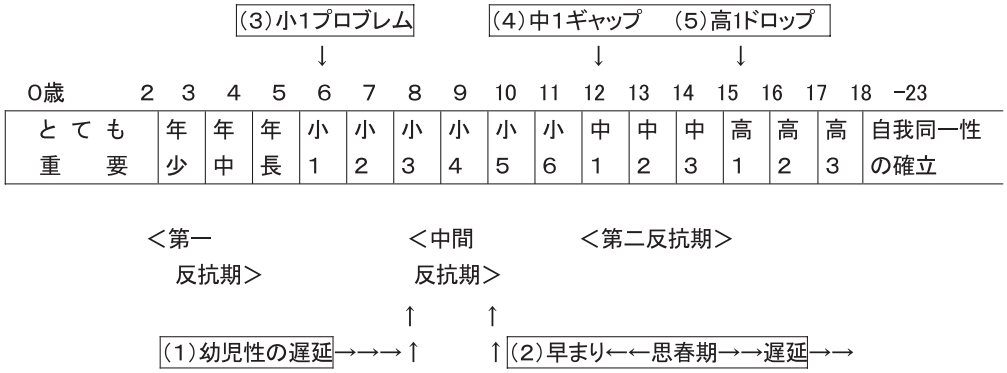
⑶　自己紹介

２．３つの段階の教育援助（石隈氏、1996年日本教育心理学会年報 P.42）



３．今の子どもたちの発達の現状と課題

(2001年日本教育心理学会シンポジウム「子どものストレスにどう対処すればよいのか」参照)



⑴　幼児性の遅延（東京学芸大学、岩立京子氏）
⑵　思春期の早まり（東京学芸大学、松尾直博氏）と遅延・長期化（橋本）
⑶　小１プロブレム
⑷　中１ギャップ
⑸　高１ドロップ（2008.7.3. 橋本命名）

朝日新聞（群馬県版）2010年11月25日・・・橋本が取材を受けた記事を使用

小6自殺 私はこう見る　　担任は寄り添う姿を　　親とは定期的に相談

このような内容の２ページの記事について説明して本題に入っていった。

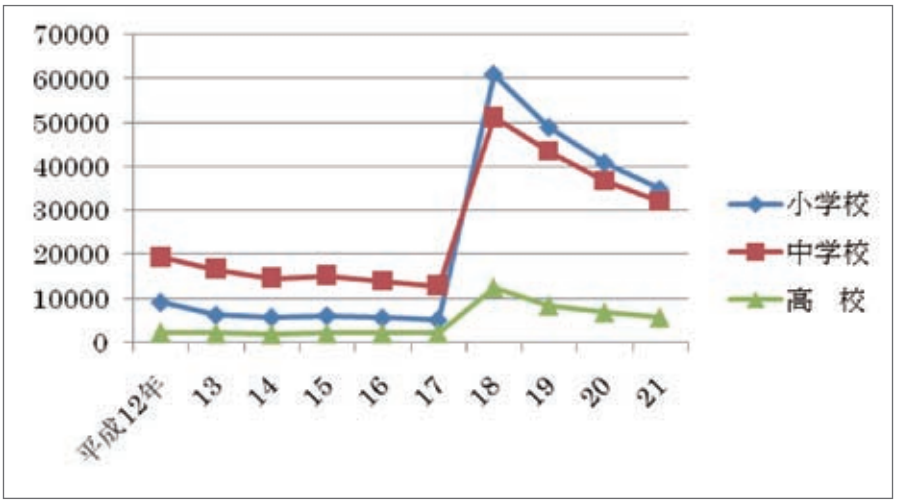


図１．いじめの認知（発生）件数の推移

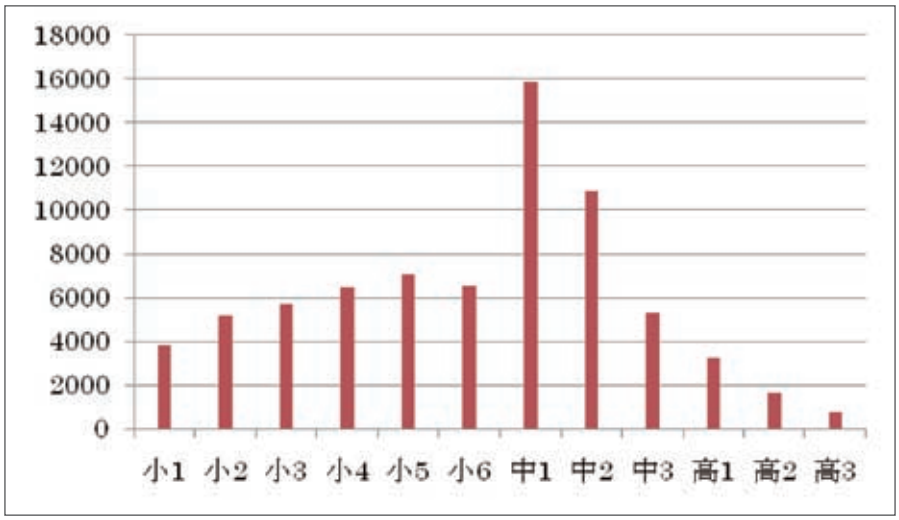


図２．平成21年度　いじめの認知件数（学年別）
平成21年度：文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」より

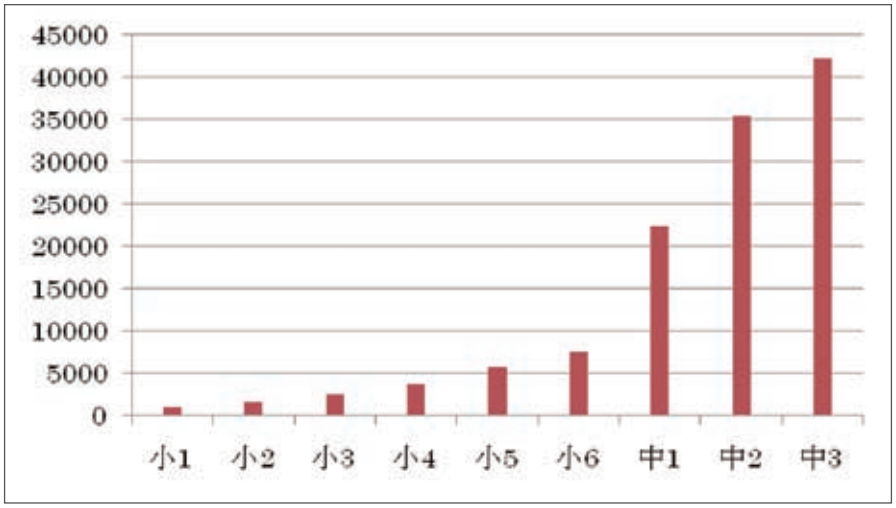


図３．学年別不登校児童生徒数
平成21年度：文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」より

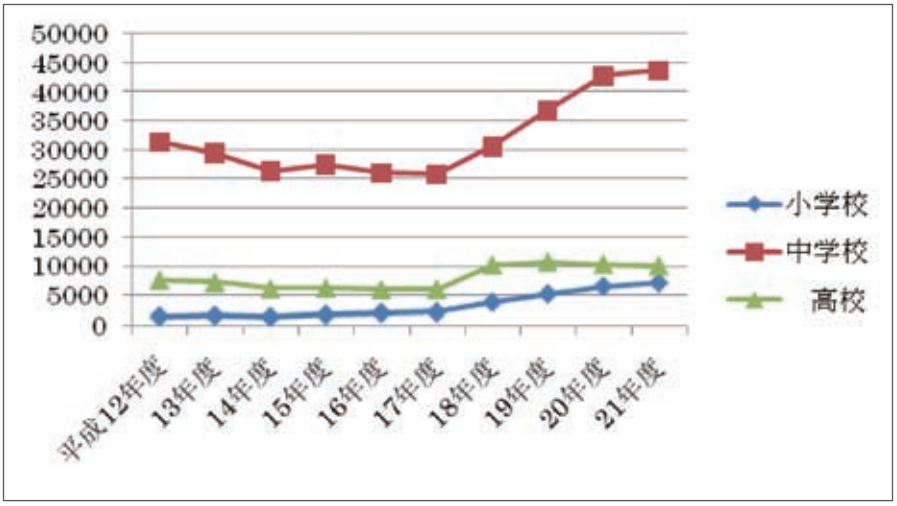


図４．学校内外を合計した暴力行為発生件数の推移
平成21年度：文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」より
(平成18年度からは、公立学校に加え、国・私立学校も調査)

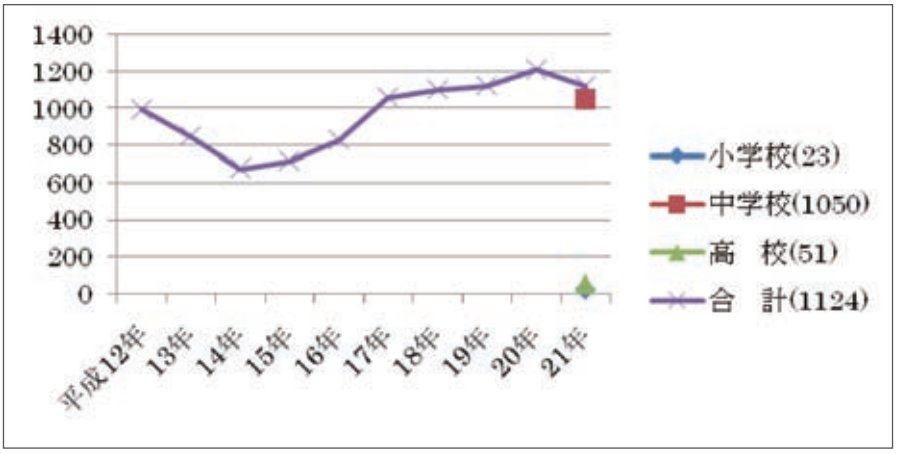


図５．警察が取り扱った校内暴力事件の推移（資料：警察庁調べ）

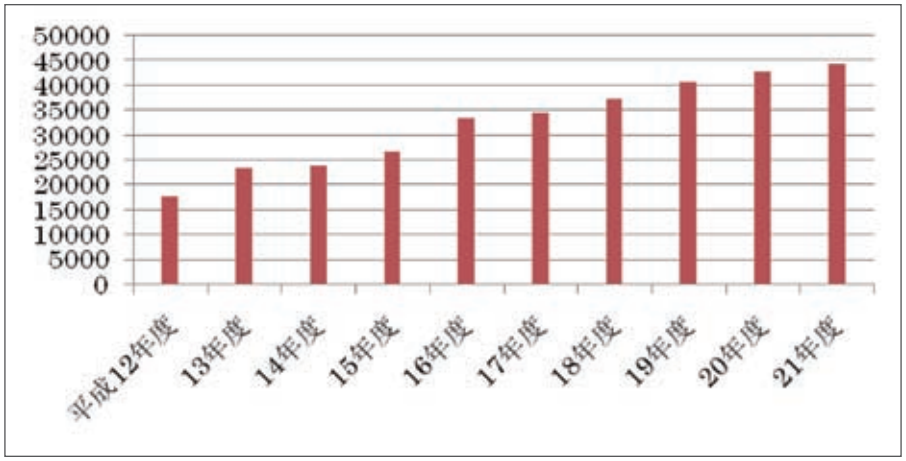


図６．児童相談所における児童虐待に関する相談対応件数の推移
資料：厚生労働省「福祉行政報告例」

表１　自殺した青少年の学職別状況（平成21年）

学職別 区　分	総数 （人）	未就学	学生・生徒						無職者	有職者	不詳
			計	小	中	高	大	他			
総　数	4035	0	923	1	79	226	517	100	1504	1553	55
(内女子)	1257	0	262	1	29	82	119	31	606	372	17

資料：警察庁調べ

参考：少年写真社「小学保健ニュース」・『**いじめ問題を考える**』（３回シリーズ・橋本担当）

８月８日号・・・小学校のいじめの現状と今後考えられる危険性

１．いじめの現状
２．今後考えられる危険性
・東日本大震災の影響
・発達障害の影響

９月８日号・・・初期段階のいじめへの対応

１．初期段階のいじめへの対応
・家庭と学校との信頼関係
・兆候があればすぐに対応を
・核になる教師のもとでのチーム作り
２．「東日本大震災の影響」に対して
３．「発達障害の影響」に対して

10月８日号・・・養護教諭ができる「個」や「集団」への対応

４．発達障害について

⑴　主な発達障害の分類と特徴（発達障害者支援法での定義などから）：中日新聞

広汎性発達障害	自閉症 ＊知的発達の遅れがない場合を「高機能自閉症」という	・社会性の障害 他者との交流がうまくいかない（孤立型、受動型、積極・奇異型がある） ・コミュニケーションの障害 表現や言葉の理解が不自然、場の空気や表情を読むのが苦手 ・想像力の障害 見立てやごっこ遊び、一般化ができない⇒ものや習慣への「こだわり」につながる ・感覚異常（診断基準には入っていない） 視覚、聴覚、嗅（きゅう）覚、味覚、皮膚感覚に過敏さ、または鈍感さがある
	アスペルガー症候群	・自閉症と同様の特徴があるが、知的発達の遅れと、言語発達の遅れがない状態
注意欠陥／多動性障害（AD ／ HD）		・注意散漫（集中力の維持が困難）や、多動（じっとしていられない）、衝動性（唐突な行動）がある
学習障害（LD）		・「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」等のどれか、あるいはいくつかに、知能に見合わないほどの障害がある
その他		・発達性協調運動障害（運動面で極端に不器用）など

⑵　自閉症スペクトルについて

『自閉症スペクトル―親と専門家のためのガイドブック』ローナ・ウイング著、久保・佐々木・清水監訳、東京書籍、2002年、「まえがき」より

「私はこの本の初版を1970年に著しました。当時は『自閉症児―親のためのガイドブック』という題でした。この本の構成は初版に似ていますが、内容はほぼ全面的に書き改めています。25年前は主としてレオ・カナーが記述した典型的な自閉症候群に関心が集まっていました。自閉症は冷たく機械のような子育てが原因だとする見方が、まだ多くの専門家に根強くありました。大人になってからの生活がどうなるかについては、ほとんど知られていませんでした。その後、カナー症候群よりずっと幅広い障害のスペクトル（連続体）があることが徐々にわかってきました。自閉症スペクトルは器質的な脳機能不全に起因する発達障害であるという事実が今では広く受け入れられており、成人期に達したときの生活についてもたくさんのことがわかってきています」

自閉症　（『医学大辞典、第19版、南山堂、2008年』（＿＿＿は、橋本が加えた）

1943年に Leo Kanner が特異な症状を示す11例を観察し、「情緒的接触の自閉的障害」と題する論文を発表し、その翌年に早期幼児自閉症と命名した。Kanner は、１）極端な自閉・孤立、２）同一性保持の強迫的要求を二大症状とした。その後、自閉症の診断学的位置づけなどについて激しい議論が展開され、その本質については種々の見解がある。DSM-IV によれば本症は広汎性発達障害に位置づけられる。発症はおおむね３歳未満で、主な症状は、１）自閉性を中心としたコミュニケーションの障害（視線を合わさない、状況に応じた情緒表出がない、反応性の全般的な欠如など）、２）言語発達の障害（言語の理解と発達の遅れ、反響言語 echolalia、比喩的言語などの特異な話し言葉など）、３）反復的で常同的な行動様式（強迫的・儀式的行動など）、４）周囲に対する特異な反応（変化への抵抗、対象への特異な興味・愛着など）である。原因は大きく心因論と器質論の２つに分けられる。

アスペルガー症候群　（『医学大辞典、第19版、南山堂、2008年』（＿＿＿は、橋本が加えた）

言語発達と認知発達に遅れがないが、社会性の障害と興味や関心の限定において広汎性発達障害と同様の症状を示すものである。臨床的には、「ことばと知能の遅れがない自閉症」ということができる。1944年、オーストリアの小児科医 Asperger によって報告された。当初自閉症の軽症型として重視されていなかったが、1981年の Wing による自験例の報告以後、再度注目を集め、DSM-TR（1994）において自閉症とは別に分類されることとなった。3歳までの言語発達に大きな遅れを認めないが、社会性の問題は早期から認められ、マイペースで一方的な対人行動、人見知りをせず初対面の人でも平気などが特徴である。ただし、誘われると友人との遊びに加わることは可能であり、集団行動も普通にやることから、早期に気がつかれにくい。思春期前後より、適応障害（不登校）、強迫性障害や被害的言動（ときに被害妄想）などの精神障害を合併してくることがあり、精神保健学的にも早期発見が重要である。

注意欠陥多動性障害　（『医学大辞典、第19版、南山堂、2008年』（＿＿＿は、橋本が加えた）

AD/HD（attention deficit ／ hyperactivity disorder）微細脳機能障害（MBD）、注意欠陥障害（ADD）、多動児などの同義語がある。注意力散漫と多動が共存するもの、注意力散漫が目立つもの、多動性が目立つもの、という3亜型ある。いずれにしても落ち着きがなく、気が散りやすく、静かに遊んだり、勉強をすることができない。おしゃべりが多く、まだ質問が終わらないうちに出しぬけに答えることが多い。カッとなりやすく、友達ができない。不器用で字のバランスがとれず、体操も不得手である。物忘れが多く、学校での忘れ物は頻回である。注意欠陥多動障害の小児は、しばしば学習障害となるので、教育関係者から注目されている。患児が学習する環境はできるだけ静かで、周囲からの刺激が多くないことが望ましい。薬物療法が効を奏することがあり、メチルフェニデートが特効的である。軽症例は長じるに従い自然治癒するが、成人になって反社会的行動の多くみられるものや、アルコール依存者になるものもある。

学習障害　（『医学大辞典、第19版、南山堂、2008年』（＿＿＿は、橋本が加えた）

LD（learning disability）学習障害は知能指数（IQ）が90以上ありながら、学習に関する中枢神経機能が障害された状態である。学習に関する中枢神経機能には、集中力、記憶力、言語機能、視的空間認知力、時間・順序認知力、緻密な運動神経機能（器用さ）、高度認知力（概念形成、推理、創造性など）、社会的認知力などがある。これらの機能のいずれかが障害されることによって、発達性語盲、発達性失語症、読書、書字、計算困難、注意欠陥多動障害（ADHD）などの状態が起こる。これらはすべて学習障害に包括されるものであるが、とくに注意欠陥多動障害は、学習障害の概念と重複している。旧文部省の協力者会議では1995年3月に「全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する、推論するなどの特定の能力の習得と使用に著しい困難を示す様々な障害をさす」との定義を示している。なお、学習障害が精神遅滞、難聴、視力障害、自閉症など、学習に関する中枢神経機能以外の障害、あるいは文化、不適当な教育、心理的、言語的要因など環境要因に伴っている場合は、ここで取りあげた学習障害とは異なる。

5．本日の事例１

ケース１・・・小学校５年生男子Ａ君＜いじめ・発達障害（アスペルガー症候群）＞

小学校入学頃から少し違う行動をとることが目立ち、相談した児童相談所の紹介で行った病院で「アスペルガー症候群」と診断された。中学年までは少し変わった子というくらいで大きな問題もなくきたが、５年生になって「いじめ」の問題が出てきた。

ストレートに物を言うＡ君に対しまわりが反発してきたのである。特に相手がいやがる「あだ名」を何十回も繰り返し言うため、女子にもいやがられるようになってきた。ある日、根に持った男子数人がトイレの中で、みんなで水をかけ、全身ずぶぬれにしてしまったのである。

A君の保護者から「これは明らかないじめではないですか」という訴えがあった。
あなたなら、この後どのように進めていきますか。

⑴　事例の説明（３分）
⑵　質問（２分）
⑶　（　　）から、このような相談を受けたとき、あなたならどのように進めますか。
（実際の相談場面を考え、10分程度で書いてみて下さい）
⑷　書き足りない人のために（10分）
（休憩10分）
⑸　グループで話し合う（約15分～20分、司会の人、お願いします）。
⑹　グループの意見をまとめて口頭で発表（記録の人、お願いします）。
グループの数が多いので、各グループ１つずつお答下さい。
・グループ１：　・グループ２：　・グループ３：　・グループ４：
・グループ５：　・グループ６：　・グループ７：
⑺　まとめ（橋本）

６．本日の事例２

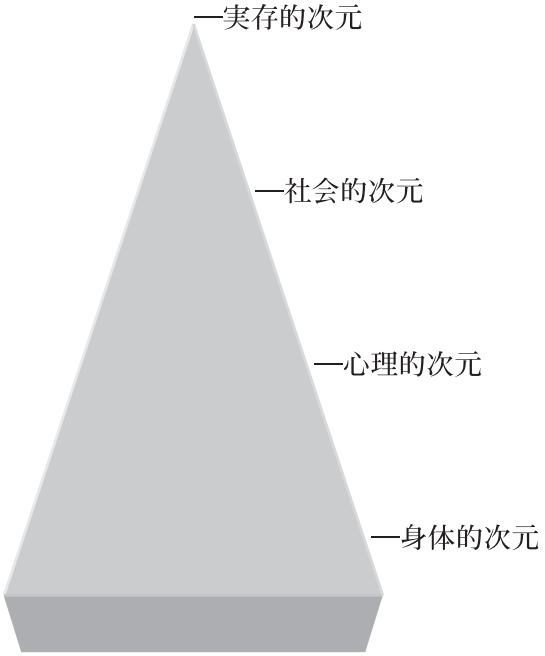
ケース２・・・中学校２年生男子＜生徒指導・発達障害（AD ／ HD）＞

授業中立ち歩いたり、騒いだりすることがあります。落ち着いた時は、こちらの言うことも良く分かって反省もするのですが、またすぐに騒ぎを起こしてしまいます。
先日もトイレの電気のスイッチをつぶしてしまい、生徒指導からも強く指導を受けましたが、その後、２か月以上登校できずにいます。母親の話では、「あんな学校にはもう行かない」と言って毎日ゲームをしているとのことです。担任には会おうともしません。
医療機関にかかっており、薬も出ているのですが、よく効いていないようです。
あなたなら、この後どのように進めていきますか。

⑴　事例の説明（３分）
⑵　質問（２分）
⑶　（　　）から、このような相談を受けたとき、あなたならどのように進めますか。
（実際の相談場面を考え、10分程度で書いてみて下さい）
⑷　書き足りない人のために（10分）
（休憩10分）
⑸　グループで話し合う（約15分～20分、司会の人、お願いします）。
⑹　グループの意見をまとめて口頭で発表（記録の人、お願いします）。
グループの数が多いので、各グループ１つずつお答下さい。
・グループ７：　・グループ６：　・グループ５：　・グループ４：
・グループ３：　・グループ２：　・グループ１：
⑺　まとめ（橋本）

７．例をみていく時の「基本的な考え方」（特に、急な相談の場合）

⑴　信頼関係を第一に
⑵　「こころ」と「からだ」を大切に



日本心身医学会（1991年）「教育講演」
「心身症の診断と治療」（笠原　嘉）を参考に

⑶ 「きっかけ」から取り組む

8．「社会性」について・・・新版Ｓ－Ｍ社会生活能力検査（三木安正監修）

	0	1	2	3	4	5
		不十分		普通		十分
① 身辺自立	|	|	|	|	|	|

（衣服の着脱、食事、排泄などの身辺自立の生活能力）

	0	1	2	3	4	5
② 移動	|	|	|	|	|	|

（自分の行きたい所へ移動するための　生活行動能力）

	0	1	2	3	4	5
③ 作業	|	|	|	|	|	|

（道具の扱いなどの作業遂行に関する生活能力）

	0	1	2	3	4	5
④ 意志交換	|	|	|	|	|	|

（ことばや文字などによるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力）

	0	1	2	3	4	5
⑤ 集団参加	|	|	|	|	|	|

（社会生活への参加の具合を示す生活行動能力）

0　　1　　2　　3　　4　　5

⑥　自己統制　　|――――|――――|――――|――――|――――|

（自己の行動に責任をもって目的に方向づける能力）

9．本日の事例３

ケース３・・・高校１年生女子Ｃさん＜いじめ・不登校・発達障害（学習障害）＞

高校１年生の９月､何人かからいじめを受けた。Ｃさんは「いじめは許さない」という思いの強い子だったので反発したところ、その子たちに殴られけがをした。それがその学校の知るところとなり、その何人かは自主退学した。Ｃさんもいづらくなったのか、まもなく中退した。

中退してから家に引きこもりがちだったが、家人に「死にたい」と訴えていたとのことだった。ある日、自宅２階から飛び降り骨折、けがは軽く今は家で療養しているとのこと。

心療内科に通っているが、その中で母親が､「小学校中学年の頃、学習障害（読み）の診断を受けていた」と話している。

あなたなら、この後どのように進めていきますか。

⑴　事例の説明（３分）

⑵　質問（２分）

⑶　（　　）から、このような相談を受けたとき、あなたならどのように進めますか。

（実際の相談場面を考え、10分程度で書いてみて下さい）

⑷　書き足りない人のために（10分）

（休憩10分）

⑸　グループで話し合う（約15分～20分、司会の人、お願いします）。

⑹　グループの意見をまとめて口頭で発表（記録の人、お願いします）。

グループの数が多いので、各グループ１つずつお答下さい。

・グループ４：　　・グループ５：　　・グループ６：　　・グループ７：

・グループ１：　　・グループ２：　　・グループ３：

⑺　まとめ（橋本）

＊どのようにして（　自殺の危険の高い青少年　）に援助の手を差し伸べるか

（『新訂増補 青少年のための自殺予防マニュアル』高橋祥友編著、金剛出版、2008年）

①　相手の悩みに真剣に耳を傾ける。

②　誠実な態度をとる。

③　相手の感情を理解する。

④　助けを求める。

10．成長支援関係を持つ（指導性と受容性の組み合わせ）

「児童心理、2002年８月号」No. 773　『カウンセリングの基礎』（福島氏）より

指導性（支援）＋

煙たい関係 －	成長支援関係 受容性＋
通行人関係	だち関係 －

11. おわりに　　誕生日のカード（教え子七百数十人に29年間１万３千通以上）のこと

Ⅲ　成果と課題

「教育相談と発達障害」という教員免許状更新講習（選択講習）を実施してきたが、熱心な受講者と充実した一日を過ごすことができた。

はじめに、「教育相談と発達障害」にかかわる全体的な講義をした後、具体的な３つのケース（橋本が実際にかかわったケースに基づいている）を使って、7～10グループに分かれてディスカッションをしていただいた。

その後、ケースについての取り組み方を交代で発表してもらい、ケースについての取り組み方をより深めるようにしていき、最後に橋本がまとめるという形とした。

毎回工夫しながら、現在効果的だと考えられるのは、以下の3点である。

１．グループ討議のメンバーを「幼稚園・保育園」「小学校」「中学校」「高等学校」「特別支援学校」の先生がなるべく均等に入るようにした。そのことにより、普段かかわっていない校種の先生と直接ディスカッションすることができ、有意義であったという声が多くあったこと。

２．グループが７～10と多いので、報告を各グループのディスカッションで中心となった「１つ」に絞った。そのことにより、後で発表のグループほど他と違う意見を述べなければならず、自ずと発表前のディスカッションが深まったこと。

３．「35歳」「45歳」「55歳」という３世代の現職教員が、それぞれ参加して良かったと思えるような雰囲気を作った。特に「55歳」の方々は講習が終わった時、いい表情をしてみえたとこと。

今後の課題としては、以下の２点が上げられる。

１．前もって、受講するに当たっての希望等を提出していただくが、こちらの力量も含め実現できていない部分があった。「小学校」「中学校」などの校種別にすればやり易いのだが、そうすると前述のように効果的だとした「校種間のかかわり」が取れないので、ジレンマとなる。

２．高山市で開催したのに大垣市から参加される方がみえ、理由をお聞きすると「西濃地区」でこの講習がないからというありがたいお答だった。「必須」の方の担当等もあり、回数をこれ以上増やせないし、次年度、別の地区で実施しても参加者が全員違うので意味はない。今後の課題である。

Ⅳ　おわりに

今まで、ずい分遠方（島根県・新潟県等）から参加してくださったことは、大変うれしかった。中でも昨年度静岡県から参加された高校の先生（教育相談担当の方）は、本年度、静岡県の公立高校（全147校）の教育相談研修会に講師として呼んでくださった。テーマは、「生徒の自殺予防」であったが、本選択講習のテーマ「教育相談と発達障害」のように総合的に捉える考え方を示すことができた。

それは、１日この講習を受けた先生なので、こちらの意図をよく分かってくれていたのだと感謝した。